

第4学年国語科学習指導案

令和2年10月20日(火)

1 単元名 「みつけた！生活の中のちがい」パンフレットをつくろう

教材名 「くらしの中の和と洋」 東京書籍4年下

他 くらしの中の「和」と「洋」について書かれた図書資料 等

2 単元の目標

(1) 観点を明確にして、くらしの中の「同じ目的だけど違いがあるもの」について比較や分類をすることができる。 【知識及び技能】(2)イ

(2) 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。 【思考力、判断力、表現力等】C(1)ウ

(3) 言葉がもつ良さに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。 【学びに向かう力、人間性等】

3 情報活用実践力指導の観点

(1) D 必要な情報を要約…伝えたいことに対する必要な情報を要約し、まとめる。(第2・3次)

(2) D 引用の仕方を知る…引用の仕方(抜き出す、出典やページ数を書く)を知る。(第3次)

(3) E 情報の分類…比較したいものの良さを、それぞれ対比チャートに分類しまとめる。

(第2・3次)

(4) G 引用の仕方…第3次で、資料を引用して自分の意見を述べる方法を学ぶ。(第3次)

4 単元設定の理由

(1) 単元について

本単元では、言語活動として「自分が興味をもった、くらしの中で同じ目的で使われているが、それぞれの良さや特徴に違いがある二つのもの」について調べ、その良さをパンフレット(『みつけた！生活の中のちがい』パンフレット)にまとめる学習を行う。

パンフレット作成に当たっては、まずペアで調べたいものを決め、良さや特徴を付箋に書き出していく。付箋を比較・分類していく際には、個人で観点(良さや特徴)に合わせて対比の形(対比チャート)に関連付けながら整理し、伝えたいことを要約しながら内容をワークシートにまとめる。したがって、単元でねらう「C読むこと」の「(1)ウ目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。」を実現するのにふさわしい言語活動である。まとめる際には、図書資料からそれぞれの良さや特徴を説明するために写真や図、文章などを必要に応じて引用していく。

教科書教材「くらしの中の和と洋」は、暮らしの中の「住」における「和」と「洋」の違いやそれぞれの良さを対比して、分かりやすく説明した教材である。序論、本論、結論で構成されており、説明文の典型的な構成となっている。本論では、「和」と「洋」の対比構造が明確に示されており、それぞれの良さを読み取りやすくなっている。また、大事な言葉や文が各段落で繰り返し使われていることや、指示語や接続語が効果的に使われていることにより、内容のまとめや段落相互の関係が読み取りやすくなっている。以上のことから、観点(良さや特徴)に合わせて対比の形で関連付けながら説明する効果や良さについて学習でき、パンフレットを書く際にも活用することができる教材である。

さらに、教科書教材以外にも、関連図書資料を準備する。関連図書資料を用いることで①児童の興味・関心に応じた資料を探して選ぶことができ、②教科書の応用として、普段の生活の

中で調べ物をする時に近い場面の状況の中で学習が行え、③情報の客観性を高めることができるという3点の良さがあると考える。

(2) 児童について

省略

(3) 指導にあたって

情報活用実践力の向上を図りつつ、本単元の目標を達成させるため、本校の4つの具体仮説に基づいて、以下の具体的な手立てを考えた。

○具体仮説Ⅰ「学習計画力」

①ゴール表現の提示と児童と共につくる学習計画

児童がパンフレットのイメージをもつことができるよう、第1次で指導者が作成したパンフレットをモデルとして示す。そして、パンフレットの作成のためにはどんな学習が必要かを児童と共に考え、学習計画を児童と対話しながら作成、共有することで、児童が主体的に学習を進めることができるようにしたい。

○具体仮説Ⅱ「情報収集力」

②付箋を活用した情報収集

伝えたいものの良さや特徴について、図書資料等を参考にしながら付箋に書き出していく。第2・3次で情報を読み取りまとめていく際には、対比の形（対比チャート）に関連付けながら付箋を集める。また、調べたいことを疑問の形にして調べていくことで、情報を書き出す目的や資料のどこに着目すれば良いのかを意識できるようにする。

○具体仮説Ⅲ「情報整理力」

③対比チャートの活用（情報活用実践力E）

図書資料等から情報を付箋にまとめたものを、対比チャート（図1）を活用して比較・分類する。それぞれの良さや特徴を付箋に書き、対比チャートに張り出していく。そして、それぞれの良さや特徴を書き出した付箋を動かしながら比較し、同じ良さや特徴のものを分類していく。分類する際に、対比構造になっているかについて考えさせる。

さわやかな味があることが得意	緑茶にしては、この味が好き	産地 日本の特産品	日本産の茶葉は、多量に採れることが知られている	緑色	緑茶
味を覚えることが得意	ミルクや砂糖を入れて飲むのが好き	外国の味が楽しい	海外産の茶葉は、日本産と比べて、味や香りが異なる	茶色	紅茶

図1 「対比チャート」

○具体仮説Ⅳ「文章表現力」

④手順を明確にした要約

本単元では要約する力を付けることが求められる。そこで、以下の手順で要約を行っていく。

(1) 各形式段落から中心文を見付ける。

文章中から具体部分を除き、抽象部分から「大事な言葉や文」を見つける。

(2) 「大事な言葉や文」を基に意味段落の中で中心となる形式段落を見つけ、要約文をつくる。

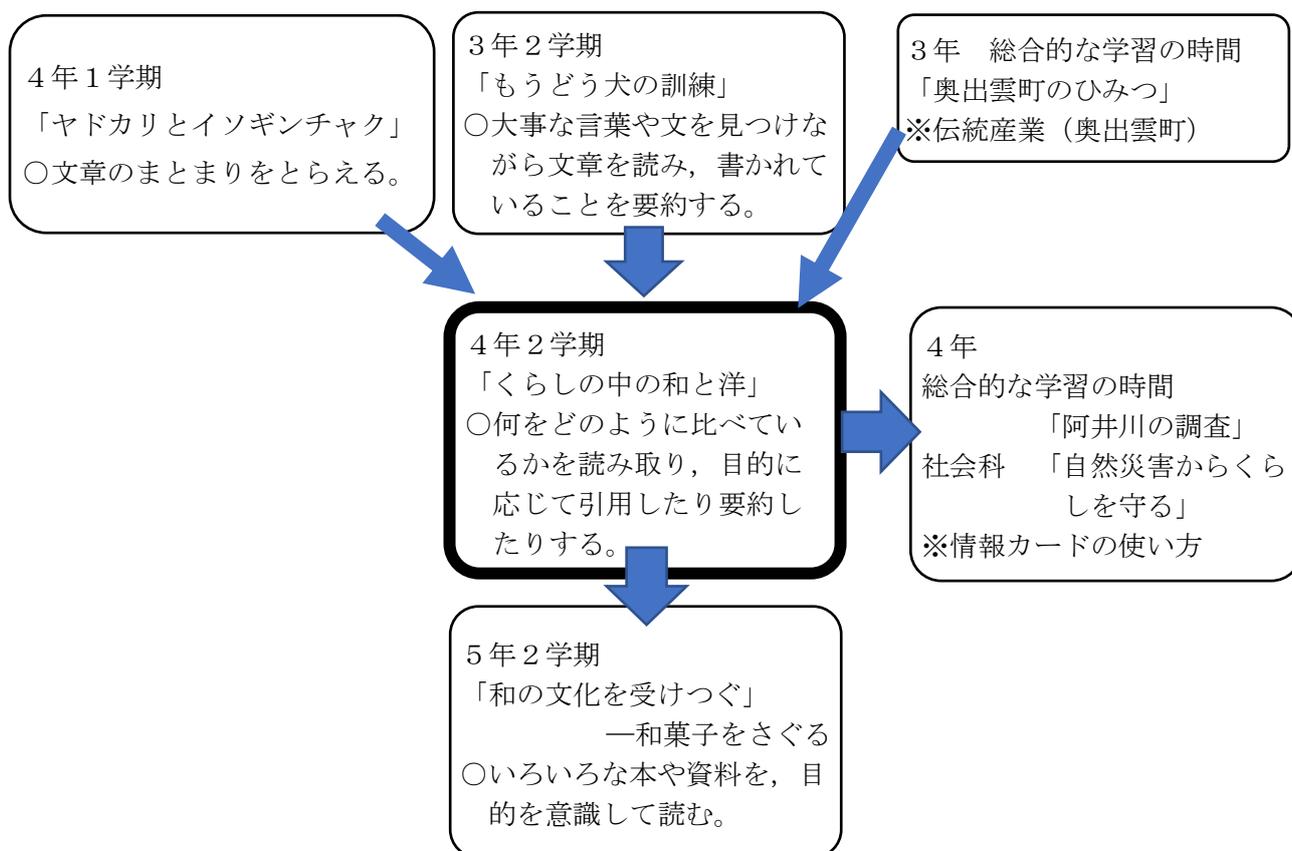
(3) 必要に応じて、分かりやすい言葉で書き換えたり言葉を補ったりする。

要約する際は、「何を伝えるために要約をするのか」を意識できるように、調べたいことを問いの形にしてから文章を要約する。また、調べたいことによっては、中心文ではない文章を抜き出し、要約することもあると伝える。図書資料の見出しを使って要約することも確認する。

⑤引用を生かした文章構成（情報活用実践力D・G）

第一次で指導者が作成した、資料から写真を引用したパンフレットをモデルとして提示する。資料から写真や図等を引用することで、読み手にとってより分かりやすく、読みたい気持ちにさせるパンフレットになることを実感させ、実際に第三次で引用させる。その際に、ルール（そのまま抜き出す、出典を明記するなど）についても指導し、適切に引用できるようにする。また、出典が分かるようブックリストを作成し、付箋にはブックリストの番号を記入するようにする。

5 系統性と他教科との関連



6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①観点を明確にして、くらしの中の「同じ目的だけど違いがあるもの」について比較や分類をしている。(2)イ	①「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて、要約している。C(1)ウ	①これまでに学習したことを振り返って学習課題を明確にし、学習の見通しをもって、目的を意識して文章を要約し、積極的にパンフレットを書こうとしている。

7 単元の指導計画と評価計画（全13時間 本時8/13時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
一 課題 設定	1	<p>①指導者の作成したパンフレットを見て、イメージをもつ。</p> <p>②身の回りにある「同じ目的で使われているが、それぞれの良さや特徴に違いがある二つのもの」（以下：「同じ目的だけど違いがあるもの」）を探す。</p> <p>③「同じ目的だけど違いがあるもの」として相応しいか全体で話し合う。</p> <p>④自分の調べる「同じ目的だけど違いがあるもの」を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の「みつけた！生活の中のちがい」パンフレットのモデルを提示することで、学習へのイメージをもたせる。 ・身の回りにある「同じ目的だけど違いがあるもの」を付箋に書き出し、グルーピングさせる。（例：履くためのもの「運動靴」「サンダル」「草履」「シューズ」など） ・見つけたものを発表し、「同じ目的だけど違いがあるもの」としてふさわしいかどうか、全体で検討させる。 ・並行読書をしながら調べたいものの違いや良さ、特徴に関わるページに付箋を付けていく。 	
	2	<p>①「和室と洋室」をモデルにパンフレットを作成する。</p> <p>②読み手にとって「もっと分かりやすく、読みたくなるようなパンフレット」を作成するまでの学習の流れについて話し合い、見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にパンフレットを作成することで、どのような学習が必要か実感をもたせる。 ・「読み手にとって『分かりやすい』『読みたくなる』パンフレットをつくる」という目標を共有し、学習の流れを児童自身が考えることで、児童が主体的に学習へ参加できるようにする。 	
二 情報 の 収集	3	<p>①「始め」「中」「終わり」の特性について確認する。</p> <p>②本文を「始め」「中」「終わり」に分ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「始め」「中」「終わり」の特性に基づいて、本文を「始め」「中」「終わり」に分けさせる。 	
	4	<p>①5つの意味段落に分ける。</p> <p>②教材文を文章構成図にまとめる。</p> <p>③序論の内容を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・接続詞や各段落の主語を基に、意味段落ごとに分けさせる。 ・教材文を文章構成図にまとめることで、文章全体の構成を視覚的に理解させる。 	
	5	<p>①教師が作成した例文を使って、要約の方法や手順について確認する。</p> <p>②昨年度学習した「もうどう犬の訓練」を用いて、実際に要約を試みる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・要約の方法や手順を具体的に理解できるようにするため、指導者が作成した例文を使いながら指導する。 ・調べたいことを問いの形にした上で、「もうどう犬の訓練」から情報を抜き出し、要約させる。 	

二 情報 の 収 集	6	①本論1・2の要点をまとめ、それぞれ要約する。 ②パンフレットにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・要点をまとめる際には、「①中心文を見つける②大事な言葉や文に気をつけて、中心文を短くまとめる」という手順を、要約は、主語に着目しながら要点を繋ぎ合わせるという手順を確認し、実践させる。 ・パンフレットに要約文を書かせる。 	<p>【思考・判断・表現①】 発言・パンフレット・ノート</p> <p>本論1・2・3をパンフレットに要約し、まとめているかの確認</p>
	7	①本論3と結論の要点をまとめ、要約する。 ②パンフレットにまとめる。 ③本時で作成したパンフレットと第一次の第2時で作成したパンフレットを比較する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次の第2時に立てた「読み手にとって『もっと分かりやすく、読みたくなるようなパンフレット』を作成する」という目標を確認し、第2時と第6・7時で作成したパンフレットを見比べ、どのように変化したかを考えさせる。 	
三 情報 の 整 理 ・ 分 析	8 (本時)	①情報を付箋に書き出す注意点について確認する。 ②対比チャートに情報を書き出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献を用いる際には、ブックリストの番号とページ番号を必ず明記させる。 ・本や資料は必要に応じて、印刷して直接書き込みながら、付箋にまとめさせる。 	<p>【知識・技能①】 付箋・対比チャート</p> <p>パンフレットに書く情報について、本や資料で、観点(良さや特徴)に沿った必要な情報を集め、比較・分類しているかの確認</p>
	9	①資料を基に見つけた「違い」から「良さ」を考え、付箋に書き出す。 ②ペアで「良さ」についての相談タイムを設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・見つけた「違い」から考えられる「良さ」を見つけ、対比チャートに書き出していく。 ・『「違い」の付箋と関係性があるか』『他に考えられる『良さ』はないか』というポイントで話し合わせる。 	<p>【思考・判断・表現①】 発言・パンフレット・ノート</p> <p>集めた情報を基に伝えたい内容をパンフレットに要約し、まとめているかの確認</p>
	10	①集めた付箋を整理する。 ②友達と交流し、自分の付箋を整理したり、友達にアドバイスをしたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を比較・分類し、観点(良さや特徴)ごとに分けさせる。 ・分けた情報をペア同士で説明したり、他の児童の分け方と比較させたりする。 	
	11	①パンフレットを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・整理した情報を基に、パンフレットにまとめさせる。 	<p>【思考・判断・表現①】 紹介文・資料・観察</p> <p>(総括評価のために残す評価)</p>
	12	①パンフレットを読み合う。 ②それぞれのパンフレットの良さについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレットの良さについて話し合う際には、「読み手にとって『分かりやすい』『読みたくなる』パンフレットをつくる」という目標を再度確認し、これまで学習した「要点・要約の仕方」「分かりやすい文章」「読み手を引き付ける引用」をポイントにして話し合えるようにする。 	<p>完成した紹介文を読み合い、要約の視点を踏まえた感想を伝え合っているかの確認</p>

<p>四 ま と め ・ 表 現</p>	<p>13</p>	<p>①パンフレットの作成の手順を振り返り,どんなことに気を付けて書いたかを話し合う。 ②これからの学習でどのようにしていきたいかをまとめる。</p>	<p>・学習に使用したワークシートやノート,そして実際に作成したパンフレットなどを見返すことで,児童が自分の成長を実感できるようにする。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度①】 <u>発言・感想・ワークシート</u> 調べたことを,どうやってまとめて文章にしていたかを振り返り,身に付けた力がどんな場面に役立つかを考え,これからの学習に生かそうという意識を高めているかの確認</p>
--	-----------	---	--	--

8 本時の学習

(1) 目標

パンフレットを作成するために必要な情報を調べたいものごとに整理して集める。【知識及び技能】

(2) 展開 (8/13時間)

時	学習活動と予想される児童の反応	指導上の留意点 (・) と支援 (◎)
3分	1 本時の流れやめあてを知る。 めあて	・パンフレットの書き方を確認し、情報を集める必要性を実感できるようにする。
	パンフレットを作るために必要な情報を、調べたいものの「ちがい」ごとに整理して集めよう。	
7分	2 指導者がモデルを提示し、情報の集め方や情報を集める時に使えるような視点を全体で確認する。	◎指導者が示した調べたいものの例に対して、実際に付箋と対比チャートを提示しながら説明することで、学習活動3・4が具体的にイメージできるようにする。 ・情報を集める際に、どのような視点があるか全体で考えることで、情報をスムーズに集められるようにする。 視点の例：「使い方」「形」「時」「目的」など
15分	3 情報を付箋に書き出し、個人で調べたいものごとに対比チャートへ貼り付けていく。	・参考文献を用いる際には、ブックリストの番号とページ番号を必ず明記するなど、付箋に書き出す際に気を付けることについて確認する。 ・事前に並行読書で違いや良さ、特徴に関わるページに付箋を付けておく。
10分	4 個人の考えたものをペアで相談し合う。	◎本や資料は必要に応じて、印刷して直接書き込みながら、付箋にまとめることができるようにする。 ・個人で考えた後にペアで相談する時間を設けることで、より多くの情報を集めることができるようにする。
10分	5 振り返りをする。 ・図書館の本を見ると今まで知らなかった違いが見つかったので、図書館の本を使うと、たくさん情報を集めることができました。 ・調べたい2つのもの同士について、同じ視点で違いを考えていくと考えやすかったです。 ・ペアの人と相談しながら情報を集めたことで、自分だけでは思いつかなかったような違いも見付けることができました。	◎相談タイムでは「①誤っている情報はないか②他に情報はないか」の2点について話し合う。 ・ペアや全体での交流後に、再び付箋を整理する時間を設ける。
		【知識・技能】 発言・ワークシート パンフレットを作成するために必要な情報を調べたいものごとに整理して集めている。

(3) 評価

十分満足できると判断される状況	おおむね満足できると判断される状況	支援を要する状況への手立て
パンフレットを作成するために必要な情報を、伝えたい内容に合わせて比較・分類しながら、適切な質と量で集めている。	パンフレットを作成するために必要な情報を、伝えたい内容に合わせて比較・分類しながら集めている。	「使い方」「形」「時」など、全体で確認した情報を集める際に使えるような視点ごとに、違いを調べるよう助言する。

(4) 研究の視点

- 集めた情報を付箋に書き込んだり、対比チャートを用いて比較・分類したりしたことは、児童が情報を整理する上で有効だったか。(具体仮説Ⅲ「情報整理力」)
- 「同じ目的で使われているが、それぞれの良さや特徴に違いがある二つのもの」という視点で選んだものに関連する図書資料を利用したことは、課題解決的な調べ学習を活性化する上で有効だったか。(図書館活用の観点)

9 研究協議の概要

参加者	校内12名、校外11名 計23名
授業及び研究協議の概要	目的は同じだが特徴や良さに違いがある2つのものについてまとめる「生活の中のちがひ」ブックをつくるために必要な情報を、観点に合わせて図書資料から調べ、付箋に書き出す授業を行った。研究協議では、観点を明確にしたり対比チャートを用いたりしたことで、多くの児童が必要な情報を集めることができていたという意見があった。